

「企業のエシカル通信簿」第1回発表会

イ 環境の調査結果について

A 環境ガバナンスに関する取り組み マネジメント 率先行動 環境基準等

・環境専任部署があるのが5社。CSR環境報告書を毎年度作成し、公表しているのは6社だった。環境行動計画を毎年度作成していた企業は1社。他社にもこうした取り組みを強く要望したい。

・環境マネジメントシステム(EMS)の国内全事業所に占める取得割合については、100%が1社、99%が1社あり、海外事業所では66%が最高であった。サプライチェーンへのEMSの実施を義務化している社はゼロ、推奨していることを確認できたのは1社のみだった。サプライチェーンのCSRを薦めていくことは食品加工・アパレル以外の分野でもあまり進んでおらず、大きな課題である。環境監査を実施しているのは4社。すべて食品加工企業だった。

・環境教育については、全従業員を対象としたカリキュラムを実施しているのは1社にとどまった。充実を望みたい。

・グリーン購入については、独自のガイドラインもしくはグリーン購入ネットワークのガイドラインを用いて組織的に実施していることが確認できたのは5社で、そのうち3社は包括的なガイドラインを定めて原材料のグリーン調達も実施していた。

・大気汚染等の環境基準に関して、国内では一部または全ての基準は法律及び当該地域の条例よりも厳しい基準を設定しているのが2社あった。

B. 気候変動・地球温暖化防止・エネルギー

・二酸化炭素の削減目標を設定していることを確認できたのは5社、そのうち2社は絶対量の目標を設定していた。スコープ3による企業が間接的に排出するサプライチェーンでの温室効果ガス排出量の集計を実施していたのは2社。パリ協定の実現に向けて今後はこのような積極的な取り組みが求められる。

・資産運用方針としての石炭火力と原子力のダイベストメント方針がある、再生可能エネルギー利活用を促進する明文化した方針等がある、脱原子力の明文化した方針等がある、企業としてパリ協定を積極的に支持する・賛同することを発表している、という取り組みはいずれもなかった。世界的にはこうした方針を示す企業が現われてきており、国内の大手企業にも望みたい。

C ごみ削減の取り組み

・3Rの推進に加えその優先順位を明確に文書化していたのは1社であった。廃棄物の削減目標を設定していることを確認できたのは5社、そのうち2社は絶対量の目標を設定していた。製品の容器包装材の削減目標を設定していたのは2社であった。

・ゼロエミッションを宣言している社が2社、リサイクル率の目標設定している社が1社。双方に関して目標を設定しているのが1社であった。これらは全て食品加工業だった。

・一方で、アパレルメーカーで不用品の下取りと再利用・リサイクル、難民等への支援と、「包装・容器削減」以外の取組をしている企業は確認できなかった。その生産過程で大量の端切れが廃棄される現状に加え、国内では年間20億着が廃棄されているというデータもある。消費者も多大な責任を負う案件であるが、メーカー側でも、服飾の廃棄に関して何らかの対策を講ずることを強く望みたい。

D 生物多様性の尊重 遺伝子組み換え 森林と海洋の保全

・生物多様性に関する指針等があり、それに基づいた取り組みがあるのは1社、違法伐採木材の使用禁止方針等を明文化しているのは1社、事業活動による生物多様性への影響について把握しているのは2社と少ない。生物多様性の保全に関する具体的な取り組みは7社で確認できたことと対照的である。その中で、本業で扱っている製品と関わる原料、素材の持続可能な調達を見据えた取り組みが4社で確認できた。

・遺伝子組み換え作物、加工品とも使用しない方針が明文化されている社はなかった。MSC 認証製品、レインフォレストアライアンス製品、RSPO 認証製品は各々1社、FSC 認証包装製品は2社から発売されていた。

E 化学物質・食の安全

・農薬、化学肥料を削減した生産者から優先的に購入する方針等がある、ネオニコチノイド系農薬を用いている生産者から購入しない方針、計画等がある、有機農産物を優先的に使用することを明文化した方針等がある社はいずれもゼロであった。また食品加工企業5社の中で化学合成添加物や環境ホルモンと指摘されている化学物質を使用しない方針もゼロであった。

・有機農産物素材を用いた製品は、アパレル企業で4社が確認できた(オーガニック・コットン)。そのうち1社はマタニティ・ベビー用にかんがりの製品があった。また食品加工業では1社があった

F 水

・水使用量の削減目標が確認できたのは2社でいずれも基準年から使用量を削減できていた。原水涵養のため森林の保全活動に主体的に取り組んでいるのが1社、社会貢献事業として水資源涵養に取り組んでいるのが1社、中水の利活用に取り組んでいるのが2社あった。またウォーターフットプリントに取り組んでいる社が1つあった。

環境全般に関して

環境への取り組みは全10社で行われているが、その取り組み内容にはかなりの差がある。また、全般的に食品加工企業に比べてアパレル企業の取り組みは少ない。世界的にはアパレル企業の環境への取り組みは注目が大きくなっている。奮起を期待したい。

なお、個別の取り組みには優れた事例をある程度見出すことができた。